

日はまた昇る！

大川市長

植木 光浩



■はじめに

新年、明けましておめでとうございます。皆様方にはご家族おそろいで良い正月を迎えられたことと存じます。

普段は遠くにいる家族が寄りあつて、家伝の雑煮の味を楽しむ時でもあります。

昨年は寅年。寅年は荒れ年にとよくいわれますが、果たしてそうになりました。特に政治の世界では、内政、外交両面で荒れに荒れた一年であつたように思います。国の意志決定の切れが鈍った途端、その間隙を衝くように尖閣と北方四島で大事件が起こりました。また朝鮮半島では砲火が交えられて、彼の国はまさに「撃ち方止め」の状態であることを改めて思い知らされた感があります。

戦後、わが国は国の安全や主権の侵害には鈍感でありましたが、まさに青天からの霹靂でありました。

■喝采

昨年6月14日の早朝、日本中が感動に酔いました。7年前に打ち上げられた「はやぶさ」が壮大な宇宙の旅をおえて地球に戻ってきたのです。60億キロの宇宙の旅から満身創痍でかえってきた「はやぶさ」の姿をみて、多くの日本人は何とも言えない愛おしさを感じ涙さえ流しました。

年末、金星探査機「あかつき」は周回軌道への投入に失敗しましたが、6年後の再接

近で望みがあるようです。

改めて日本の科学技術の底力と技術者魂に感動します。はやぶさの成功は日本人に自信と誇りを思い起こさせましたが、今年のノーベル賞も日本人がやりました。

事業仕分けは必要ですが、すぐには役に立ちそうにない地味な研究や学問や事業の値打ちは、射程距離の長い目線で洞察し、その本質を見抜くことが大切のようです。

■洞察

30年前、今のような中国の経済発展は想像できませんでした。あの政治体制下において自由主義経済が機能するなどありえない。多少の経済発展はありえても、やがてかつてのように路線闘争が熾烈をきわめ、経済は低空飛行のままダッチロールをくり返すイメージで洞察していました。

今後、中国はどのように巨大化していくか。経済と軍事の力を身につけるつれ、徳を失っていくがとき粗暴なふるまいは気になるところであります。

大川も20年ほど前までは昇り龍でありました。4万人のマチで、しかも一つの産業が千八百億円をかせぐとは想像をこえることです。中国を含む新興国がグローバル経済に参入してきて地場産業をもつマチは厳しい状況にあります。万事はあざなえる縄

のごとし。順風の時ばかりではないように、逆境がずっと続くものではありません。いずれ日はまた昇る。必ずや反転して光が当たる時がやってきます。裏から表へといかに早く変わるか、それは私たちの頑張りにも掛かっています。

■日はまた昇る

昨年はマスタープランを改訂して、向こう10年のマチづくりのガイドラインと成しました。有明海沿岸道路を西にのぼし、国道442号、385号をつくりあげ、花宗川の改修と水路クリークの整備などハード系の事業も着実に進展するでしょう。加えて、農水産・商工の振興、独創的で特色ある教育、先進的な環境政策と水と緑のマチづくり、そして悠久の歴史と伝統の力を持ち寄ったマチづくり。産業、教育、環境、伝統文化を大川浮揚の四つのエンジンに見立てて、ここに市民の知恵と力と善意という良質燃料を注入すれば離陸上昇、「大川また日は昇る」皮切りの年になるよう最善をつくしてまいります。

結びにあたり、市勢の発展にご支援とご協力をたまわっていることに対し、感謝申し上げます。今年が皆様にとって、また大川市にとって良き年となりますよう祈念して、年頭のご挨拶といたします。

年頭の

謹賀

あいつ 新年



大川市議会議員

井口 嘉生

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望にあふれた輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から市政の発展はもとより、市議会運営に対して温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、世相を最も反映した漢字として選ばれました「暑」を象徴するような記録的な猛暑となり、宮崎県での口蹄疫の発生や日本航空の経営破たんなど、暗い影を落とすニュースが多い中、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還、チリ鉱山落盤事故における作業員奇跡の救出など明るい話題もあつた年ではなかったかと思えます。

経済面においては、長期的な景気後退、雇用情勢悪化、急激な円高により、いまだ景気回復の見通しが立たない現状にあります。

本市においても、基幹産業の低迷など、経済環境が厳しい中、雇用創出などの緊急経済対策、少子・高齢化社会への対応などに取り組んでおりますが、景気低迷の影響もあり、法人市民税、固定資産税を始めとした市税等の減収により、厳しい財政運営

を余儀なくされており、今後、地方分権を推進する上で、議会も行政もその役割がますます増大すると考えております。

も行政も、互いに切磋琢磨し、車の両輪のごとき関係を保ちながら、議会として精一杯の権能を果たしてまいりたいと考えております。

非行の低年齢化、陰湿ないじめや児童・高齢者への虐待など私たちを取り巻く環境は、たいへん複雑になってきておりますが、活力あるまちづくりには、企業が元気になることはもちろん、市民一人ひとりが生きがいを感じ、笑顔で充実した毎日を過ごすことが大切であります。

市議会では、開かれた議会を目指し、年に4回発行しています「市議会だより」に加え、平成20年8月からは市のホームページに市議会のページを開設しました。さらに、昨年9月議会から、開かれた議会を目指し、市民の皆さまに対しより一層の情報発信となるインターネット議会中継を開始しました。議場に来ていただく時間の取れない方でも、いつでもどこでも本会議をご覧になることができます。

昨年は、まちづくりの基本指針となる第5次長期総合計画いわゆるマスタープランが、議会の議決を経て改訂されました。この計画に示されている政策や施策を達成するため、福祉や生涯学習、安全安心等々のまちづくりに、基本計画や実施計画等が策定され、各課で事務及び事業に取り組みれてあります。

市議会といたしましては、すべての議員が住民の代表として一人ひとりの役割を認識し、市民の皆様の負託にこたえられるよう、二丸となつて諸課題に取り組む所存でありますので、今後とも皆さま方のご協力をお願い申し上げます。

議会も行政もめざす目的はひとつであり、それは、市民の幸せを図ることです。ます。

どうか、本年も市議会に対し、二層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。市民の皆様にとつて今年一年が幸多からんことをご祈念申し上げます。して、新年のごあいさつといたします。

活力あるまちづくりへの新たな飛躍の年